

評価規準例 数学Ⅱ Essence (東書 数Ⅱ 716)

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・ 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・ 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・ 関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

3 各章の観点別評価規準例

※部分は教科書該当箇所。「本文」は、該当ページの紙面から Act, 例, 例題, 問を除いた部分。

1章 方程式・式と証明

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 節 多項式・分数式の計算					
1 3 次の乗法公式と因数分解	1	3 次の乗法公式と因数分解の公式について理解し、それらを用いて計算することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 3 次の乗法公式や因数分解の公式を用いて、計算することができる。 ※例 1, 2, 問 1, 2 		
2 二項定理	2	パスカルの三角形と $(a + b)^n$ の展開式における各項の係数について考察し、二項定理を用いて、式を展開することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ${}_nC_r$ の値を求めることができる。 ※例 3, 問 3 二項定理を用いて、式を展開することができる。 ※例 4, 問 4 	<ul style="list-style-type: none"> パスカルの三角形の数の並び方を考察し、式の展開に活用することができる。 ※Act.1, 2 	<ul style="list-style-type: none"> パスカルの三角形の数の並び方を考察し、式の展開に活用しようとしている。 ※Act.1, 2
3 分数式とその計算	3	分数式とその約分と通分、四則計算について、数の四則計算と関連付けて理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 分数式の約分や通分ができ、分数式の四則計算をすることができる。 ※例 5~10, 問 5~10 	<ul style="list-style-type: none"> 分数式について、数の四則計算と関連付けて考察することができる。 ※例 5~10 	
2 節 2次方程式					
1 複素数	3	虚数、複素数について理解し、数を拡張することに興味をもつ。さらに、複素数の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 複素数の相等を用いて、問題を解くことができる。 ※例 3, 問 3 虚数単位を用いて、複素数の計算をすることができる。 ※例 4, 問 4 共役な複素数の性質を用いて、複素数の除法を計算することができる。 ※例 5, 6, 問 5 	<ul style="list-style-type: none"> 実数の範囲では解けない 2 次方程式について、2 乗して -1 になる数を用いて考察することができる。 ※p.18, 19 本文, 例 1, 2, 問 1, 2 	
2 2 次方程式	2	すべての 2 次方程式を解くことができる。また、2 次方程式の判別式について理解し、解を判別することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 解の公式を用いて、2 次方程式を解くことができる。 ※例題 1, 問 6 2 次方程式の解を判別することができる。 ※例 7, 例題 2, 問 7, 8 	<ul style="list-style-type: none"> 2 次方程式の解の種類について、判別式を用いて考察することができる。 ※例題 2 	

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 解と係数の関係	2	2次方程式の解と係数の関係について理解し、与えられた2数を解とする2次方程式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の係数を基にして、解の和と積を求めることができる。また、それを利用して式の値を求めることができる。 ※例8, 例題3, 問9, 10 2次式を複素数の範囲で因数分解することができる。 ※例題4, 問11 与えられた2数を解とする2次方程式を求めることができる。 ※例9, 問12 	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について考察することができる。 ※Act.1 	<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について考察しようとしている。 ※Act.1
4 2次関数のグラフと2次方程式	1	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフとx軸の位置関係を調べることができる。また、式の見方を豊かにするとともに、グラフを活用することのよさを認識する。	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフとx軸の位置関係を調べることができる。 ※問13 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の位置関係について、2次方程式の判別式に対応させて考察することができる。 ※p.28 本文 	
3節 高次方程式					
1 多項式の除法	2	多項式の除法について、数の除法と関連付けて理解し、商と余りの関係を表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 多項式において、$A = BQ + R$の関係が成り立つことを理解し、多項式の除法を計算することができる。 ※例1~3, 問1~3 	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の除法について、数の除法と関連付けて考察することができる。 ※例1, 2 	
2 因数定理	2	剰余の定理と因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に関して、それらを利用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 剰余の定理を用いて、除法における余りを求めることができる。 ※例4, 5, 問4, 5 因数定理について理解し、因数定理を用いて多項式を因数分解することができる。 ※例6, 例題1, 問6, 7 		

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 高次方程式	1	高次方程式について理解し、因数分解、因数定理を用いて、高次方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 因数分解、因数定理を用いて、高次方程式を解くことができる。 ※例題 2~4, 問 8~10		
4 高次方程式の利用	1	身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。		<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。 ※例題 5, 問 11	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、高次方程式を活用しようとしている。 ※例題 5, 問 11
4 節 式と証明					
1 等式の証明	2	左辺と右辺をそれぞれ計算することで、等式を証明し、論理的な思考力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 左辺と右辺をそれぞれ計算することで、等式を証明することができる。 ※例 1, 例題 1, 2, 問 1~3	<ul style="list-style-type: none"> 等式の証明について、論理的に考察することができる。 ※例 1, 例題 1, 2	
2 不等式の証明	2	左辺と右辺の差や左辺の 2 乗と右辺の 2 乗の差をとることで、不等式を証明し、論理的な思考力を養う。また、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係について理解し、それを用いて不等式を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 左辺と右辺の差や左辺の 2 乗と右辺の 2 乗の差をとることで、不等式を証明することができる。 相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係について理解し、それを用いて不等式を証明することができる。 ※例 2~4, 問 4~6 ※例 5, 問 7, 8	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の証明について、論理的に考察することができる。 ※例 2~5	
課題学習					
レターパックに入れることができる荷物の体積	1	身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。		<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。 ※p.44 本文, 1~3	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、高次方程式を活用しようとしている。 ※p.44 本文, 1~3

2 章 図形と方程式

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 節 座標と直線の方程式					
1 座標と 2 点間の距離	3	数直線上の 2 点間の距離を求めることができる。また、座	<ul style="list-style-type: none"> 数直線上や平面上の 2 点間の距離を求めることができ 	<ul style="list-style-type: none"> 平面上の 2 点間の距離の公式を用いて、三角形の形状 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、座標平面を活用しよう

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		標平面について理解し、平面上の2点間の距離を求めることができる。	<p>る。</p> <p>※例 1, 2, 問 1~4</p>	<p>を考察することができる。</p> <p>※例題 1, 問 5</p> <p>・身近な問題を解決することにより、座標平面を活用することができる。</p> <p>※Act.1</p>	<p>としている。</p> <p>※Act.1</p>
2 内分点・外分点	4	線分の内分・外分の意味を理解し、数直線上や平面上の内分点・外分点の座標を求めることができる。また、三角形の重心の座標を求めることができる。	<p>・線分の内分・外分の意味を理解している。</p> <p>※例 3, 問 6</p> <p>・数直線上や平面上の内分点・外分点の座標を求めることができる。また、三角形の重心の座標を求めることができる。</p> <p>※例 4~7, 問 7~10</p>	<p>・定理の証明に、座標を活用することができる。</p> <p>※Act.2</p>	<p>・定理の証明に、座標を活用しようとしている。</p> <p>※Act.2</p>
3 直線の方程式	2	直線の傾きと切片について理解し、1点と傾きや、2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。	<p>・直線の傾きと切片について理解している。</p> <p>※例 8, 問 11, 12</p> <p>・1点と傾きや、2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。</p> <p>※例 9, 10, 問 13, 14</p>		
4 2直線の関係	3	2直線の交点の座標が方程式を連立して求められることを理解する。また、平行・垂直な2直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。	<p>・2直線の交点の座標が方程式を連立して求められることを理解している。</p> <p>※例 11, 問 15</p> <p>・平行・垂直な2直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。</p> <p>※例 12~14, 例題 2, 3, 問 16~20</p>		
2節 円の方程式					
1 円の方程式	2	与えられた条件から円の方程式を求めたり、円の方程式から円の中心の座標と半径を求	<p>・与えられた条件から円の方程式を求めることができる。</p>		

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		めたりすることができる。	※例 1, 例題 1, 問 1, 3 ・円の方程式から円の中心の座標と半径を求めることができる。 ※例 2, 3, 問 2, 4, 5		
2 円と直線	1	円と直線の共有点の座標を求めることができる。また、円と直線の共有点の個数について、2次方程式の判別式の符号と対応していることを理解する。	・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ※例題 2, 問 6	・円と直線の共有点の個数について、2次方程式の判別式の符号から考察することができる。 ※問 7	
3節 軌跡と領域					
1 軌跡	1	軌跡について理解し、与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。	・与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。 ※例題 1, 問 1, 2	・軌跡が表す図形について考察することができる。 ※Act.1	・軌跡が表す図形について考察しようとしている。 ※Act.1
2 不等式の表す領域	3	不等式が表す領域を図示したり、領域を不等式に表したりすることができる。	・不等式が表す領域を図示することができる。 ※例 1~3, 例題 2, 問 3~8 ・領域を不等式に表すことができる。 ※例題 3, 問 9	・座標平面上の点の集合について、不等式の解として考察することができる。 ※p.77 本文	
3 連立不等式の表す領域	2	連立不等式が表す領域を図示することができる。また、それを活用することができる。	・連立不等式が表す領域を図示することができる。 ※例 4, 5, 問 10	・ $x + y$ の値の最大値を求めることに、連立不等式が表す領域を活用することができる。 ※例題 4, 問 11	
課題学習					
2つの物体が同じ大きさに見える場所はどこか	1	身近な問題を座標の問題として捉え、軌跡を活用して解決することができる。		・身近な問題を座標の問題として捉え、軌跡を活用して解決することができる。 ※p.86 本文, 1~4	・身近な問題を解決することに、軌跡を活用しようとしている。 ※p.86 本文, 1~4

3章 三角関数

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 三角関数					
1 一般角	1	角の概念を一般角まで拡張することについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般角の動径の位置を求めることができる。 ※例1, 問1, 2 		
2 弧度法	2	弧度法の意味を理解し、弧度法による扇形の弧の長さや面積を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさについて、度数法を弧度法で表したり、弧度法を度数法で表したりすることができる。 ※例2, 問3 弧度法による扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ※例3, 問4 	<ul style="list-style-type: none"> 扇形の弧の長さや半径の関係から、中心角の大きさについて考察することができる。 ※Act.1 	<ul style="list-style-type: none"> 扇形の弧の長さや半径の関係から、中心角の大きさについて考察しようとしている。 ※Act.1
3 三角関数	1	三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。 ※例4, 問5 		
4 三角関数の相互関係	2	一般角の三角関数の相互関係が成り立つことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般角の三角関数の相互関係を利用して、正弦、余弦、正接を求めることができる。 ※例題1, 2, 問6, 7 	<ul style="list-style-type: none"> 一般角の三角関数の相互関係が成り立つことについて、単位円を用いて考察することができる。 ※p.98本文 	
5 三角関数の性質	2	三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。 ※例5~7, 問8~10 		
6 三角関数のグラフ	3	三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかくことができる。 ※例8~10, 問11~14 	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数 $y = a \sin \theta$, $y = \sin(\theta - b)$, $y = \operatorname{sinc} \theta$ の係数とそのグラフや周期の関係について、多面的に考察することができる。 ※Act.2 	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数 $y = a \sin \theta$, $y = \sin(\theta - b)$, $y = \operatorname{sinc} \theta$ の係数とそのグラフや周期の関係について、多面的に考察しようとしている。 ※Act.2
7 三角関数を含む方程式	1	単位円やグラフを利用して、三角関数を含む方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 単位円やグラフを利用して、三角関数を含む方程式を解くことができる。 ※例題3, 問15 		

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2節 加法定理					
1 加法定理	2	三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。	・三角関数の加法定理を用いて、三角関数の値を求めることができる。 ※例 1, 2, 例題 1, 問 1~3	・サインの加法定理の考えについて、単位円を用いて考察し、説明することができる。 ※Act.1	・サインの加法定理の考えについて、単位円を用いて考察し、説明しようとしている。 ※Act.1
2 2倍角の公式	1	2倍角の公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。	・2倍角の公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 ※例題 2, 問 4		
3 三角関数の合成	1	三角関数の合成を理解し、それらを用いて三角関数を合成することができる。	・三角関数を合成することができる。 ※例 3, 問 5	・関数 $y = \sin \theta + \cos \theta$ のグラフの特徴について、考察することができる。 ※Act.2	・関数 $y = \sin \theta + \cos \theta$ のグラフの特徴について、考察しようとしている。 ※Act.2
課題学習					
観覧車のゴンドラの高さの変化	1	身近な問題を解決することに、三角関数を活用することができる。		・身近な問題を解決することに、三角関数を活用することができる。 ※p.117本文, 1~4	・身近な問題を解決することに、三角関数を活用しようとしている。 ※p.117本文, 1~4
昼間の時間の季節による変化	1	日常の事象を考察することに、三角関数を活用することができる。		・日常の事象を考察することに、三角関数を活用することができる。 ※p.118本文, 1~3	・日常の事象を考察することに、三角関数を活用しようとしている。 ※p.118本文, 1~3

※課題学習は、「観覧車のゴンドラの高さの変化」、「昼間の時間の季節による変化」のうち、どちらか1つを選択して、ご使用ください。

4章 指数関数と対数関数

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 指数関数					
1 指数の拡張	2	指数を整数へ拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて、計算することができる。	・整数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。 ※例 1~3, 問 1~3	・身近な問題を解決することに、指数を考察することができる。 ※Act.1	・身近な問題を解決することに、指数を考察しようとしている。 ※Act.1
2 累乗根	3	累乗根の意味を理解し、計算することができる。また、指	・累乗根の意味を理解し、計算することができる。	・指数が分数のときでも、指数法則が成り立つことを考	・指数が分数のときでも、指数法則が成り立つことを考

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		数を有理数へ拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて、計算することができる。	※例4~8, 問4~9 ・有理数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。 ※例9, 例題1, 問10, 11	察することができる。 ※Act.2, 3	察しようとしている。 ※Act.2, 3
3 指数関数とそのグラフ	3	指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。また、指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	・指数関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかきすることができる。 ※問12 ・指数関数の大小を比較することができる。 ※例題2, 問13 ・指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ※例題3, 4, 問14, 15	・指数関数と2次関数の値の変化やグラフの比較について、考察することができる。 ※Act.4	・指数関数と2次関数の値の変化やグラフの比較について、考察しようとしている。 ※Act.4
4 指数関数の利用	1	身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。		・身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。 ※例題5, 問16	・身近な問題を解決することに、指数関数を活用しようとしている。 ※例題5, 問16
2節 対数関数					
1 対数	1	対数の意味を理解し、対数の値を求めることができる。	・対数の意味を理解し、対数の値を求めることができる。 ※例1, 2, 例題1, 問1~4	・指数関数のグラフを用いて、指数と対数の関係について考察することができる。 ※p.138本文	
2 対数の性質	2	対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。	・対数の性質を用いて、対数の計算をすることができる。 ※例3, 例題2, 問5, 6, 7 ・底の変換公式を用いて、対数の値を求めることができる。 ※例4, 問8		
3 対数関数とそのグラフ	3	対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較	・対数関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかきすることができる。	・指数関数と対数関数の値の変化やグラフの比較について、考察することができ	・指数関数と対数関数の値の変化やグラフの比較について、考察しようとしてい

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		をしたりすることができる。 また、対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	※例 5, 問 9, 10 ・対数関数の大小を比較することができる。 ※例 6, 問 11 ・対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ※例題 3, 4, 問 12, 13	る。 ※Act.1	る。 ※Act.1
4 常用対数	1	常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを用いて、整数の累乗の桁数を求めることができる。	・常用対数の意味を理解し、常用対数表を用いて、対数の値を求めることができる。 ※例 7, 8, 問 14~16 ・常用対数を利用して、整数の累乗の桁数を求めることができる。 ※例題 5, 問 17		
5 対数関数の利用	1	身近な問題を解決することに、対数関数を活用することができる。		・身近な問題を解決することに、対数関数を活用することができる。 ※例題 6, 問 18	・身近な問題を解決することに、対数関数を活用しようとしている。 ※例題 6, 問 18
課題学習					
計算尺を作ろう	1	身近な問題を解決することに、対数関数を活用することができる。		・身近な問題を解決することに、対数関数を活用することができる。 ※p.152 本文, ①, ②	・身近な問題を解決することに、対数関数を活用しようとしている。 ※p.152 本文, ①, ②

5章 微分と積分

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 微分係数と導関数					
1 平均変化率	1	関数の平均変化率が、曲線上の2点を通る直線の傾きに等しいことを理解し、平均変化率を求めることができる。	・関数の平均変化率を求めることができる。 ※例 1, 2, 問 1, 2	・具体的な事象で、時間の幅を小さくしたときの平均の速さの変化について考察することができる。 ※Act.1	・具体的な事象で、時間の幅を小さくしたときの平均の速さの変化について考察しようとしている。 ※Act.1
2 微分係数	2	極限值や微分係数の意味を理	・極限值を求めることができ		

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		解し、微分係数を定義に基づいて求めることができる。また、微分係数を利用して、接線の傾きを求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> る。 ※例 3, 4, 問 3 ・微分係数を定義に基づいて求めることができる。 ※例 5, 問 4 ・微分係数を利用して、接線の傾きを求めることができる。 ※例 6, 問 5 		
3 導関数	3	導関数の意味を理解し、導関数の計算ができる。また、導関数を利用して、微分係数を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数の公式を用いて、関数を微分することができる。 ※例題 1, 問 6 ・導関数を利用して、微分係数を求めることができる。 ※例 11, 問 7 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数の定義を基に、導関数について考察することができる。 ※例 7~10 	
2節 導関数の応用					
1 接線の方程式	1	曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。 ※例題 1, 問 1, 2 		
2 関数の増加・減少	2	導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。 ※例 1, 例題 2, 問 3, 4 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数 $f'(x)$ の符号と関数 $y = f(x)$ のグラフの増減の対応について、考察することができる。 ※Act.1 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数 $f'(x)$ の符号と関数 $y = f(x)$ のグラフの増減の対応について、考察しようとしている。 ※Act.1
3 関数の極大・極小	2	関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めたり、そのグラフをかいたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めることができる。 ※例 2, 3, 問 5, 6 ・増減表を作り、関数のグラフをかくことができる。 ※例題 3, 問 7 	<ul style="list-style-type: none"> ・極値をもたない関数について、増減表からその理由を考察することができる。 ※例 4, 問 8 	
4 関数の最大・最小	2	ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題を解決することに、関数の最大・最小を活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題を解決することに、関数の最大・最小を活用しようとしている。

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		できる。また、それを利用して身近な問題を解決することができる。	ことができる。 ※例題 4, 問 9	※例題 5, 問 10	※例題 5, 問 10
5 方程式への応用	1	3次関数のグラフを利用して、3次方程式の実数解の個数を調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 3次関数のグラフを利用して、3次方程式の実数解の個数を調べることができる。 ※例題 6, 問 11		
3節 積分					
1 不定積分	3	不定積分の意味を理解し、公式を用いて不定積分を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分の意味を理解し、不定積分を求めることができる。 不定積分の公式を用いて、不定積分や原始関数 $F(x)$ を求めることができる。 ※例 1~3, 問 1, 2 ※例 4, 例題 1, 2, 問 3~5		
2 定積分	2	定積分の意味を理解し、公式を用いて定積分を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の意味を理解し、定積分を求めることができる。 定積分の公式を用いて、定積分を求めることができる。 ※例 5, 問 6 ※例 6, 7, 問 7, 8		
3 定積分と面積	4	定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形的面積を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形的面積を求めることができる。 ※例 8~10, 例題 3, 4, 問 10~14	<ul style="list-style-type: none"> 直線で囲まれた図形的面積を求める方法について、定積分の計算と関連付けて考察することができる。 ※問 9	
課題学習					
球に内接する立体の体積	1	身近な問題を解決することに、微分を活用することができる。		<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、微分を活用することができる。 ※p.195本文, 1~3	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題を解決することに、微分を活用しようとしている。 ※p.195本文, 1~3

- * [1 学習の到達目標] は，文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)」より作成しています。
- * [2 評価の観点の趣旨] は，国立教育政策研究所(2021)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学」より作成しています。